# 圧倒的な強さで初V

## 大会レコードで完全優勝

### 《九州アマチュア選手権》

**通算１５アンダー　２７３**

**日大２年・林田　直也（トライアルＷＡＫＡＭＩＹＡ）**

【写真は林田３兄弟（㊧から長男・卓也、次男・直也、三男・聖也）と父・信男さん】

圧倒的な強さが際立った。２位に２打差の首位だった３日目終了後に「勝つ自信はあります」と胸を張っていた林田は、その言葉通り大会記録（４日間、パー７２）となる１５アンダー２７３で逃げ切った。最終的に２位・長﨑大星とは３差だが、数字以上のものが感じられた。

今大会の会場となった熊本ＧＣ城南コースは九州では屈指の難しいゴルフ場で知られるが、林田はいとも簡単に攻略した。初日にコースレコードの６５をマ

ークすると、２日目７０、３日目６９、最終日６９と４日ともアンダーパーでラウンド。「グリーンは難しいけど、タッチが合っていたし、プレッシャーのかかるティーショットもなかった。この大会はずっと勝ちたいと思っていました。去年は最終組で回ったけど、勝てなくて悔しい思いをした」。昨年は３位、中学１年から８年連続出場の今回、ようやく頂点にたどり着いた。

強さの秘訣はショット力だ。３００ヤードを超えるドライバーショットに、得意とするアイアンが正確になってきた。中でも「思うようなストレート球が打てるようになった」とロングアイアンに磨きがかかっている。この武器はロングホールで強力な味方になる。４日間１６ホールのロングで１０アンダー（１イーグル、９バーディー、１ボギー）を稼いだ。優勝スコアのうち実に３分の２だ。

海外遠征が林田のハートに火をつけた。昨年１２月と今年３月の２度、米国での試合に出場。「飛距離にびっくりしました。（ドライバーショットを）計測器で測ったら、６２ヤードも置かれたんです。飛距離の違いを肌で感じました」。それから「あまりする方じゃない」という瞬発系の筋トレを取り入れる。その成果が出ているわけだ。

北九州市出身の林田は４歳からゴルフを始め、中学、高校と福岡市の沖学園に進学。毎日、電車通学を行い、朝練などの場合は午前４時５０分発の電車に乗っていたという。「友達も多く、朝練も楽しかった」と当時を振り返る。現在は将来のプロを目指して学生生活を送る。目標とするのは日大の３年先輩となる杉浦悠太プロ。日大４年時の昨年、アマチュアとして「ダンロップ・フェニックス」を制した。林田は１年間、杉浦と同じ空気を吸った。「あの人は全てがうまい。こんな人は初めて見ました。人にも優しいし、全てに尊敬できる」と憧れる。

日本アマは連続出場。昨年は最終日の１８番で１・５ｍのバーディーパットを外し１１位タイ。１０位までとなる翌年（今年）のシード権を取れなかった。「ナショナルチームの一員になりたい、と思っていたし、１０位までに入りたかった。１打の重みを感じたし、悔しい思いをしました。今年は出るからには優勝を狙いたい」と九州の次は全国の頂点を目指す。

**《林田に3打及ばなかったものの、最後まで大健闘の2位の日章学園中3年・長﨑大星（宮崎国際）》**「前半の３ホールまでで２つ伸ばしたかったけど、できなかった。逆に直ちゃん（林田）が伸ばしてアウトで５打広がった。１０番のボギーで１位を狙うのではなく『自分のゴルフをしよう』と切り替えたら、バーディーが３つきました。日本アマでは優勝に絡めるように頑張りたい」

## 《熊本GC城南コース》